

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>



### スマートキッズソリス船堀

「プール」「うきわ」「たからさがし」「らむね」「やきそば」などみんなでキーワードを出し合って作成しました。鉛筆やペンで下絵を描いたあとに、絵具で丁寧に色を塗って完成させました。

## スマートキッズの夏休みの活動 ～社会性やコミュニケーション力を高める～

村上 浩将（スマートキッズ発達支援研究所）

今回は、スマートキッズの各教室における夏休みの活動事例を通して、子どもたちが社会性を身に付けるための工夫や、コミュニケーション力を高めるための場面設定をご紹介します。活動そのものをご家庭で再現するのは難しいかもしれませんが、1つ1つの工夫はきっと生活の中でも活かせるはずです。ぜひ参考にいただければと思います。

### ① 自分で決めて、自分で伝える ～買い物活動を通して

昼食等を自分で買いに行く「買い物活動」の日は、子どもたちにとって特別な1日になります。スマートキッズを利用する子どもたちの中には、普段から自分で買い物をしているような子どももいます。しかし、多くの子どもにとって「自分で買ったものをスマートキッズに持ち帰って食べる」ことは、普段の買い物とは違うドキドキワクワクする経験のようです。一方で、自分一人で注文することや正しくお金を払うことが難しい子どもにとっては、買い物活動は大きなチャレンジになります。指導員がついているとはいえ、本人にとっては大冒険でしょう。

どの子にとっても、買い物は社会性やコミュニケーションの力を身に付ける大きなチャンスです。例えば、どんなに近場のお店でも、教室から外に出て向かうことになります。（送迎車に乗るとしても、車からお店までは外の道を通ります！）周りに通行人がいないか、自転車は来ないか、他のお客さんは並んでいるか。それらを踏まえて、進む道筋や待つ場所を判断するのが社会性です。スマートキッズの指導員の誘導のもと、子どもたちは事故なく「適切な移動」を学ぶことができます。

そして、いざ注文の場面。自分で決めた注文を、自分で責任をもって伝えます。店員さんに敬意をもって、そして間違いのないように明確に、「〇〇をください」「袋もください」「ありがとうございます」。ただし、コミュニケーションは言葉だけではありません。発語のない子どもは、お店のメニューを指差して、店員さんに伝えます。必要に応じて、写真付きのメニューを教室で用意して、コミュニケーションツールとして活用します。このような注文は、ぶっつけ本番ではなく、教室で事前にしっかり練習しています。練習のうえで本番に臨むことで、子どもの力になっていくのです。

もちろん、お金を払うことも社会性の1つですので、子どもに応じて指導員がサポートしています。こうしたチャレンジを経て購入した昼食は、きっといつもよりも美味しいことでしょう！

### ② 仲間同士でコミュニケーションをとる ～博物館や水族館などへの課外活動を通して

スマートキッズでは教室によって、博物館や水族館、またボウリング場などの施設での課外活動を行っています。

それは、ただ「楽しむ」ためだけではなく、さまざまな療育的な目的をもって実施されています。その代表例の1つが「仲間とのコミュニケーション」です。

課外活動では、通常の教室での活動とは異なる環境で、子どもたちはさまざまな刺激を受けます。例えば、博物館や水族館では「あれ、何だろう？」「これ、きれい！」と、自然と指導員や友達に話しかける場面が出てきます。言葉が出なくても、指差したり身体の動きで示したり、普段は他者との関わりが少ない子どもでも感動を表現しようとしします。そうした表現が出たときには、指導員も言葉や表情で返します。あるいは、友達同士でのやり取りを促します。こうした場面を逃さないことが、コミュニケーションの力を育てるうえで大切なのです。

また、「わたしはあっちを見たい」「ぼくが先にやりたい」など、それぞれの意見がぶつかり合う場面も生まれます。これはお互いの意見を聞き、譲り合う社会性を育てるチャンスです。指導員は、子どもたちが上手に話をまとめられるように、「今回はあなたが先でいいよ、次はぼくがやっていい？」といったお手本を示すなどの支援をしていきます。また、こうしたぶつかり合いを事前に想定し、出発前の教室で話し合う場面を作ることもあります。

このような課外活動中のやり取りを通して、子どもたちは自分の気持ちを表現する力や、相手とコミュニケーションをとるスキルを身に付けていくのです。

### ③ 意見を出し合い、協同で取り組む ～教室内的の集団・小集団活動を通して

ここまで外に出る活動を中心にお話をしてきましたが、多くの園や学校がお休みとなる夏休みは、教室内でゆったりと課題に取り組むことができるチャンスでもあります。さまざまな活動例がありますが、今回は「教室ポスター」の制作活動をご紹介します。

スマートキッズの教室ポスター制作では、まず「何を描くか」、そして「どうやって作るか」を子どもたちみんなで話し合います。描きたいモチーフについて、思い思いに考えたことを発表したり、いくつかの候補から選んで手を挙げたりと、個々に合った形で自分の意見を表明します。作り方についても同様に、子どもたちの意見を尊重して決めていきます。(もちろん、安全面には配慮しています)

そして実際の制作過程においても、黙々と個人作業を行うだけではありません。道具の貸し借り、使うペンや折り紙の譲り合い、誰がどこを描くのか——などといった、コミュニケーションを要する場面をあえて設定することで、やり取りの力を伸ばしていく。外に出ることだけが、社会性を伸ばす手段ではないのです。



このようにスマートキッズでは夏休みらしい活動の中で、また普段も同様に、子どもたちの社会性やコミュニケーション力を育むための手立てをたくさん取り入れています。もちろん、子どもたちの力は自然と伸びていくものですが、指導員が意図的に場面設定をつくることで、より効果的なコミュニケーションができるようにしています。



#### <プロフィール>

村上 浩将 スマートキッズ発達支援研究所 所員 臨床心理士・公認心理師・学校心理士

学校や児童発達支援、放課後等デイサービスにて、さまざまな個性がある子どもたちと直接かかわってきました。そして教育・心理の専門家として、一人ひとりの居場所をどのようにつくっていくのか、安心して成長できる場とはどんなものなのかを考え、実践してきました。これからも「スモールステップ」でお子さまのもつスキルを伸ばし、いずれはお子さま自身が自分で居場所をつくっていけるように、保護者の皆さまと力を合わせた支援を提供していければと思っています。